

②ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業（アルコール・プロジェクト）

ふくしま心のケアセンター
地域アルコール対応力強化事業
（アルコール・プロジェクト）
令和5年度 報告書

一般社団法人福島県精神保健福祉協会
ふくしま心のケアセンター

目 次

1. アルコール・プロジェクト概要・・・・・・・・・・・・・・・・	84
1) 地域アルコール対応力強化事業目的	
2) 令和5年度活動方針	
3) アルコール・プロジェクトメンバー	
2. 人材育成・研修・・・・・・・・・・・・・・・・	85
1) 令和5年度支援関係者向け研修会「生活習慣病と節酒（減酒）指導」 （WEB開催）の開催	
2) 令和5年度ふくしま心のケアセンター職員向け研修会の開催	
3. 地域活動への支援・・・・・・・・・・・・・・・・	85
1) 福島県県中保健福祉事務所アルコール家族教室における講師及び教室運営サ ポート	
2) 福島県県南保健福祉事務所アルコール家族教室講師及び教室運営サポート	
3) 郡山市保健所アルコール・ギャンブル等家族相談における教室運営サポート、ア ドバイザー	
4) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師及び教室運営サ ポート	
5) 福島県相双保健福祉事務所アルコール家族教室における講師及び教室運営サ ポート	
4. 普及啓発活動・・・・・・・・・・・・・・・・	88
1) アルコール関連問題予防啓発キャンペーンの開催（いわき方部センター、ふたば 出張所、相馬方部センターの共同開催）	
2) ふたばワールド2023in おおくまにおけるブース出展	
3) 広野町健康まつりにおけるブース出展	
5. アルコール・プロジェクトメンバー内勉強会・・・・・・・・	89
6. その他・・・・・・・・・・・・・・・・	89
1) 福島県精神保健福祉センター主催令和5年度アディクションスタッフミーティン グへの参加	
7. 課題と展望・・・・・・・・・・・・・・・・	90

1. アルコール・プロジェクト概要

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された被災者の心のケア事業の一環として「地域アルコール対応力強化事業」を実施するために、平成26年4月に発足した。

1) 地域アルコール対応力強化事業目的

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による環境の変化や見通しが立たない避難生活等は、多くの県民に多種多様なストレス症状を引き起こしており、うつ傾向の割合の増加が見られている。また、訪問支援等を行っている支援者からは、飲酒問題が関係する相談や支援の難しさが報告されている。

このような背景から、地域の中でアルコール関連問題への取り組みを強化することを目的に、ふくしま心のケアセンター内にプロジェクトチームを設置し活動を行っている。プロジェクトチームでは、地域支援者の人材育成を通して、地域のアルコール関連問題への対応力強化を図ると共に、被災者への支援及び普及啓発を展開する。

2) 令和5年度活動方針

一次予防を中心に、二次・三次予防も念頭に置きながら事業を進める。研修会は引き続き節酒支援をテーマに、事例検討を交えながら実施し、支援者の理解と対応力を深める。その他、保健所等が実施するアルコール家族教室への協力、被災地の健康イベント等における啓発活動、自助グループ等の関係機関・団体と連携した活動を実施する。

3) アルコール・プロジェクトメンバー

☆リーダー ★サブリーダー ○事務局 ※オブザーバー

前田正治（ふくしま心のケアセンター所長・福島県立医科大学災害こころの医学講座
主任教授）

☆○木原英里子（ふくしま心のケアセンター基幹センター業務部 専門員）

★米倉一磨（ふくしま心のケアセンター相馬方部センター センター長）

★横山朱里（ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員）

壁谷真里奈（ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員）

大槻真実（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 専門員）

佐藤彩（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 専門員）

大竹佳子（ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 専門員）

泉真実子（ふくしま心のケアセンター基幹センター総務部 事務員）

○山下和彦（ふくしま心のケアセンター基幹センター業務部 主任専門員）

○三瓶愛（ふくしま心のケアセンター基幹センター業務部 専門員）

○宮崎弘美（ふくしま心のケアセンター基幹センター業務部 専門員）

※石堂正章（福島県保健福祉部障がい福祉課 保健技師）

※橘いづみ（福島県精神保健福祉センター 保健技師）

2. 人材育成・研修

1) 令和5年度支援関係者向け研修会「生活習慣病と節酒（減酒）指導」

（WEB開催）の開催

目的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通して具体的な節酒支援のスキルを身につけることを目的とする。

日時：令和5年9月12日（火） 13：30～15：00

形式：WEBセミナー（使用システム：Zoom ウェビナー）

対象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者、関係機関の職員

参加者：視聴者デバイス数102台（視聴者総数約160名、スタッフ含む）

内容：【報告】「ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業の取り組みについて」

ふくしま心のケアセンター副所長 前田 正治

【講演】「生活習慣病と節酒（減酒）指導」

講師 医療法人見松会 あきやま病院 福田 貴博 先生

主催：一般社団法人 福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター

後援：公立大学法人 福島県立医科大学

2) 令和5年度ふくしま心のケアセンター職員向け研修会の開催

日時：令和6年2月22日（木）13：30～15：00

場所：基幹センター（業務部）会議室（Zoom ミーティング併用）

対象：ふくしま心のケアセンター職員

参加者：23名

内容：事例検討

講師 医療法人見松会 あきやま病院 福田 貴博 先生

3. 地域活動への支援

1) 福島県県中保健福祉事務所アルコール家族教室における講師及び教室運営サポート

場所：福島県県中保健福祉事務所・県中保健所

対象：アルコール依存症の方（あるいはその疑いのある方）の家族

※本人、家族が県中地域（郡山市除く）にお住まいの方に限る

日程	内容	参加者数
令和5年 6月14日	「CRAFT：CRAFTを用いたプログラムについて ～CRAFTとは何か～」	6名
令和5年 7月19日	「CRAFT：状況をはっきりさせよう」	3名
令和5年 8月16日	「CRAFT：安全第一（暴力への対策）」	2名

令和5年 9月14日	「CRAFT：コミュニケーションを変える①」	3名
令和5年 10月19日	「CRAFT：コミュニケーションを変える②」	3名
令和5年 11月15日	「CRAFT：イネイブリングをやめるとは？」	3名
令和5年 12月21日	「CRAFT：望ましい行動を増やす方法」	2名
令和6年 1月18日	「CRAFT：あなた自身の生活を豊かにする」	4名

主 催：県中保健福祉事務所

講 師：県中・県南方部センター主任専門員、専門員

2) 福島県県南保健福祉事務所アルコール家族教室講師及び教室運営サポート

場 所：県南保健福祉事務所

対 象：県南地域に居住し、アルコール問題を抱えている方の家族

日程	内容	参加者数
令和5年 6月15日	「CRAFT：CRAFT とは」 「CRAFT：状況をはっきりさせよう」	2名
令和5年 7月13日	「CRAFT：安全の確保（暴力への対応）」	1名
令和5年 8月17日	AA 白河 体験発表	2名
令和5年 10月19日	「CRAFT：安全第一、暴力への対策」 「CRAFT：コミュニケーションを変える」	1名
令和5年 11月16日	「CRAFT：望ましい行動を増やす方法」	2名
令和5年 12月14日	「CRAFT：イネイブリングをやめる」	3名
令和6年 1月18日	「CRAFT：治療をすすめる」 「CRAFT：あなた自身の生活を豊かにする」	3名

主 催：県南保健福祉事務所

講 師：県中・県南方部センター専門員

3) 郡山市保健所アルコール・ギャンブル等家族相談における教室運営サポート、アドバイザー

場 所：郡山市保健所

対 象：アルコールやギャンブルに関する悩みを抱える方のご家族・パートナー

日程	内容	参加者数
令和5年 5月31日	「CRAFT：状況をはっきりさせよう」	3名
令和5年 6月29日	中止	—
令和5年 7月27日	「CRAFT：安全第一（暴力への対策）」	2名
令和5年 8月31日	「CRAFT：コミュニケーションを変える①」	4名
令和5年 10月26日	中止	—
令和5年 11月30日	中止	—
令和5年 12月21日	「CRAFT：コミュニケーションを変える②」	1名
令和6年 1月25日	「CRAFT：イネイブリングをやめるとは？」	2名
令和6年 2月22日	「CRAFT：望ましい行動を増やす方法」	4名
令和6年 3月14日	「CRAFT：あなた自身の生活を豊かにする」	4名

主 催：郡山市保健所

教室運営サポート、アドバイザー：県中・県南方部センター専門員

4) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師及び教室運営サポート

場 所：いわき市総合保健福祉センター

対 象：アルコール関連の問題を抱える方の家族

日程	内容	参加者数
令和5年 8月30日	CRAFT 学習「第1回、CRAFT を用いたプログラムについて」	2名
令和5年 9月27日	CRAFT 学習「第2回、どんな問題か明確にしましょう」	2名
令和5年 10月25日	CRAFT 学習「第3回、暴力と安全第一について」	3名
令和5年 11月22日	CRAFT 学習「第4回、より良いコミュニケーション」	3名
令和5年 12月20日	CRAFT 学習「第5回、上手くいかない事を中止しましょう」	4名
令和6年 1月24日	CRAFT 学習「第6回、望ましいことを増やしましょう」	2名

令和6年 2月28日	CRAFT 学習「第7回、家族自身の生活をより良くするために」	3名
令和6年 3月27日	CRAFT 学習「第8回、治療を勧めてみましょう」	2名

主 催：いわき市保健所

講師、教室運営サポート：いわき方部センター方部課長、専門員

5) 福島県相双保健福祉事務所アルコール家族教室における講師及び教室運営サポート

場 所：浪江町地域スポーツセンター他

対 象：アルコール依存症の方（またはその疑いのある方）の家族

日程	内容	参加者数
令和5年 7月11日	講話 アルコール依存症に関する一般公開講座 「AA 福島地区委員会の活動について、AA に繋がったきっかけ、家族の関わり方について」 講師 AA 福島地区委員会 家族ミーティング（懇談会）	4名
令和5年 9月26日	CRAFT 学習「アルコール依存症とは」	1名
令和5年 11月14日	講話「アルコール依存症とは」 講師 相双保健福祉事務所保健師 当事者インタビュー 家族相談・交流	4名
令和6年 1月23日	中止	—
令和6年 2月26日	「アルコール依存症とは」、CRAFT 学習は「コミュニケーション・スキルを改善する」、「イネイブリングをやめる」	2名

主 催：相双保健福祉事務所

講師、教室運営サポート：ふたば出張所主任専門員、アルコール・プロジェクトメンバー

4. 普及啓発活動

1) アルコール関連問題予防啓発キャンペーンの開催（いわき方部センター、ふたば出張所、相馬方部センターの共同開催）

日 時：令和6年3月7日（木）10：00～14：00

場 所：道の駅なみえ

対 象：道の駅来場者

内 容：啓発用リーフレットの配布（300部）

協 力：相馬うぐいす断酒会

2) ふたばワールド 2023in おおくまにおけるブース出展

日 時：令和5年10月7日（土）10：00～15：00
場 所：大熊町「学び舎ゆめの森」
対 象：一般住民、関係機関・団体職員等
内 容：アルコールパッチテスト（200セット）実施、啓発資材配布
主 催：双葉地方広域市町村圏組合、一般財団法人福島県電源地域振興財団、大熊町

3) 広野町健康まつりにおけるブース出展

日 時：令和5年11月3日（金）10：00～15：00
場 所：広野町中央体育館
対 象：健康まつりに来場した町民等
内 容：アルコールパッチテスト（100セット）実施、啓発資材配布
主 催：広野町

5. アルコール・プロジェクトメンバー内勉強会

開催日	内容
令和5年 6月13日	アルコール依存症の支援と実際
令和5年 8月8日	事例検討会
令和5年 10月10日	動機づけ面接
令和5年 12月12日	家族支援について

6. その他

1) 福島県精神保健福祉センター主催令和5年度アディクションスタッフミーティングへの参加

【第2回】

日 時：令和5年10月20日（金）13：30～15：30
場 所：福島県保健衛生合同庁舎
対象者：司法、保健、医療、福祉行政関係機関、各種相談窓口担当者、依存症の自助団体等の運営に携わっている支援者等
参加者：20名（ふくしま心のケアセンター職員含む）
内 容：研修「摂食障害について」
グループワーク

【第3回】

日 時：令和6年2月2日（金）13：30～15：30

場 所：福島市市民会館

対象者：司法、保健、医療、福祉行政関係機関、各種相談窓口担当者、依存症の自助団体等の運営に携わっている支援者等

参加者：27名（ふくしま心のケアセンター職員含む）

内 容：「自助グループについて知ろう」

(1) 福島県薬務課からの情報提供

（大麻取締法の改正について、市販薬の過剰摂取（overdose）について）

(2) 自助グループの紹介

(3) グループワーク

7. 課題と展望

本アルコール・プロジェクトがはじまって10年目を迎えた。今年度も、専門職研修や家族支援、各種啓発活動、関連会議への参加など幅広い分野で事業を行い、参加者の評価も概ね良好であった。毎年のことであるが、あきやま病院の福田先生の講演は大変わかりやすく、本年もまた160名の参加者を得るなど好評のうちに終えることになった。熱心な講演を毎年行っている福田先生には心から感謝したい。そしてCRAFTなどはコロナ禍の影響もあって行えない時もあったが、今は少しずつまた集えるようになっていてその点もまた喜ばしいことである。

一方で課題も残る。最近行われた市町村へのアンケート調査からは、プロジェクトを長く続けてはいるものの、市町村への浸透には今なお不十分な点がある、ということがわかった。すなわち、私たちの試みが市町村のケア力の底上げに十分つながっていない恐れがある、ということである。今後は、市町村はもとより福島県精神保健福祉センター等との連携をいっそう密にして、いかにアルコールに関する健康リテラシーを上げていくか、ポピュレーション・アプローチの進め方について検討する必要がある。

（文責：前田正治）